

きんもくせい

平成30年10月11日発行
静岡県養護教諭研究会
代表 増田 真澄
(磐田市立城山中学校)

「今までどおりに惑わされず」



静岡県養護教諭研究会 副会長 杉山 香理

「先生、これって壊れているじゃない？」テニスコートで熱中症計をかざしていた私をのぞき込み、生徒が言った言葉でした。そこに示された周囲温度は、やはり壊れているとしか思えない異常な数値だったので仕方ありません。今年の夏は「異常気象」と言われる本当に暑い夏でした。

異常気象とは、「数十年間に1回程度の現象、あるいは人が一生の間にまれにしか経験しない現象」だと気象庁は定義しています。ですが、各地での災害が相次ぎ、「異常気象」が、今年はすっかり「また起こっている気象」になっていました。

教室にエアコンのない本校では、室温30度以上となり、空調の効いた部屋に移動して授業を行ったり、部活動の自粛をしたりと、職員で緊張しながら毎日を過ごしていました。私たちは、子どもの命を預かり、守って、元気な状態で家に帰さなければなりません。そのためには、ぼんやりと「今までどおり」のやり方をしていることは、もう通用しないと強く感じた夏でした。

「異常気象」に限らず、子どもを取り巻く環境は絶えず変化しています。

本年度から来年度にかけて編集を進めています「養護教諭実践事例集16」は、「当たり前の仕事」を確実にやり、また現代的なニーズに応えられるよう編集委員が知恵を出し合い、皆様からの貴重な実践をまとめていきます。

「当たり前の仕事」はもちろん、「今までどおり」に惑わされず、周りの状況を的確に捉え皆さんと一緒に進化し続けていく養護教諭でありたいと思っています。



地区紹介



湖西地区

湖西地区は、静岡県の最西端、愛知県との境に位置し、新居小、白須賀小、鷺津小（複数配置）、岡崎小（複数配置）、湖西東小、知波田小の小学校6校と、新居中、白須賀中、鷺津中、岡崎中、湖西中の中学校5校の計13名で組織されています。

年間9回の研修会を開催し、6月には「成長曲線の活用について」市立湖西病院の小児科医夏目先生の講話を聞きました。「成長曲線の作成は、肥満だけでなく様々な病気の発見に繋がること」「身体測定や日頃の様子から異常に気づき医療への橋渡しをしていくこと」の大切がわかりました。12月には、昨年引き続き常葉大学教育学部太田教授から「特別な配慮を要する子どもへの支援」の講話を聞き、更に理解を深めていく予定です。また、来年度実施の健康診断票の電子化に向け、磐田市教育委員会学校教育課の鈴木先生の講話を聞き、現在内容の検討に入っています。

養護教諭夏季研修会

8月7日(火) 会場:静岡市清水文化会館「マリナート」

静岡県教育委員会主催の養護教員講習会終了後、本会主催の養護教諭夏季研修会が行われました。

今回の夏季研修会では、「LGBTの基礎知識と養護教諭ができること」と題して、岡山大学大学院保健学研究科教授 中塚 幹也 氏より講演をしていただきました。

性同一性障害の基礎となる正しい知識をあらためて学び、性同一性障害で苦しむ子どもたちに寄り添う養護教諭の対応や役割について、実際の事例をあげながらお話をしていただきました。

「13人に1人の割合＝どこの学校にも必ずいる」と言われる、性同一性障害で悩んでいる子どもたちの心に寄り添える養護教諭になれるように、さらに学校体制も整えていきたいと、切実に考える貴重な時間となりました。



<アンケートより> *代表的な感想を紹介します。

- ・ まずは養護教諭をはじめとする子どもたちを支える大人が、正しい知識を身につけ支援につなげていくことが大切だと思った。LGBTの子どもたちに大切なことは、普通であること。その普通が、いつか「当たり前」になるような世の中になればいいなと感じた。
- ・ 養護教諭だけでなく、多くの職員にも知って欲しい内容だった。カミングアウトとアウティングでは大きな違いがあり、当事者の意思を尊重することが大切だと感じる。
- ・ 性自認と性志向によって、本人の認識が変わることが改めて分かった。ジェンダーということのみにとらわれるのではなく、1人1人の存在を尊重できることが大切なのだと感じた。
- ・ 「家族だから言えないこと」を支えてあげなければならないと使命感を感じた。発達段階に合わせた性教育に、性の違和感が小中学生でも自覚している可能性があることを理解して保健指導を行いたい。

今年度会場のマリナートは、音楽施設であるため会場の使用に制約があり、ご不便をおかけしましたが、皆様の御協力により、無事に開催することができました。役員一同心より感謝申し上げます。



小中高校交流研修会

8月21日(火) 会場:すんぷらーざ

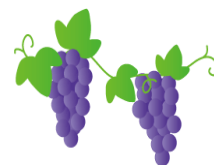
静岡県高等学校養護教育研究会役員、本研究会役員、会誌「たちばな」編集委員、地区理事が参加して、研修会を開催しました。

前半は地区ごとに分かれ、児童生徒の保健室利用状況やけがの実態等の情報交換をしました。

今年度は、異常ともいえる暑さから、熱中症対策の情報交換についても話題の中心となりました。

後半は「けがの予防と対応」について、メディカルスポーツマイスター 湯山諒平 氏 花井梨紅 氏に、アイスパックの作り方やストレッチ等の実技を交え、講演をしていただきました。

今回の研修会で学んだ内容については、「たちばな 61号」に掲載しますので御覧ください。



平成30年度 冬季研修会のおしらせ

テーマ 「 災害時の子どもの心のケア ～ 現代的ニーズに応える ～ 」

多様化、複雑化、深刻化する子どもたちの健康課題解決には、養護教諭としての専門的な視点での対応が必要となります。災害発生時においては、その役割がさらに重要となります。今回の冬季研修会は、静岡大学教育学部教授の小林朋子氏を講師にお迎えし、災害発生時の子どもたちの心のケアについて研修します。専門職としての資質向上のため、多くの会員の御参加をお待ちしています。

開催日:12月14日(金) 会場:グランシップ